（別紙）

令和6年度大阪府福祉基金地域福祉振興助成金地域福祉推進助成「事業評価」（事業概要）

団体名	特定非営利活動法人こえとことばとこころの部屋
事業名	ニシナリ多文化共生事業だんらんっらんっ！
実施期間	2024年４月１日～2025年３月31日
助成（実績）額	531,000円

事業概要	事業実績	事業を実施したことによる成果
外国人と交流するときに言葉を壁に感じてしまいがちで、本当はもっと話したいと思っていても言葉が話せないからと尻込んでしまい、交流をむずかしく感じてしまう人も多くいる。言葉をこえてつながる架け橋としてアートや表現することがきっかけになると考える。そこで「共に感じること・共につくること・共にはたらくこと」の3つを柱として、ワークショップを月1回のペースで開催し、多文化・多世代が交流できる場をつくる。そして体を動かすことや食事を作って共に食べることを通して、コミュニケーションを促し、お互いの文化を知り合い尊重しあうことを目指す。 また事業終了後も訪れることでき、地域の各所に居場所を感じられるような場が生まれるように、異文化交流が活発となるように外国人が多く訪れる場所、多世代が集まる場所、高齢者が多く集まる場所、それぞれの特性をもった場所を行き来し多文化・多世代が出会えるネットワークを作る。 毎月1回、地域拠点でワークショップや食事会を開き、交流の拠点のネットワークをつくる。	ほぼ計画通り月一回のワークショップを行うことができた。 ただ毎回新企画の食や身体を媒介にして表現を試みるワークショップでは、ある程度予想はしていても思わぬ出来事が起こることも多かった。 予定通りの実績を得る・量的な指標を達成することを目指すのではなく、予定しないものにどんな意味を発見するのかということを重視して、最後まで取り組んだ。誰でも参加可能なイベントのため、近所の酔っ払った人が参加することがあり、その時参加してくれた人の感想にも「怖かった」という声もあった。しかしその後、実行委員会の振り返りでは酔っ払った人に帰ってもらうこともできただろうけど都合のわるい人を排除することでの解決ではなく、困った行いが起きたときに実行委員会の人たちで共有しどう対応をするかを話し合うことを大事にしたいと結論づけた。そのため注意が必要な人には目を配らなければならないが、安全に色んな人と出会う体験は多文化共生をテーマにしたイベント開催には重要だと考え、そうした場づくりを心がけるようにした。 年間を通して想像を超える人数が参加し、様々な背景を持つ人々が交流することはできた。しかし会場のキャパに対し、予想以上のこどもたちが来たのもあって、暑さ寒さ対策がままならないこともあった。夏はイベント時間を短縮するなどして対策したい。	当法人のゲストハウスは、釜ヶ崎という地域にあることから様々な背景、ルーツを持つ人々、多文化多世代集まりやすい場所でもある。そこで同じように多文化共生をテーマにしている人と出会い、イベント講師に呼ぶことにつながったりしたこともあった。また言葉によらないイベントのためいろんな背景をもつ人が参加することができた。味噌作りは外国の人にとってはあたらしく、自国の発酵食品についての話をしてくれたり、焚き火でパンを焼いたときは、フィンランドではよく焚き火でパンを作ることを教えてくれたりした。イベントをとおして、いろんな文化を知り出会う機会になった。 就労にむずかしさを感じている人にとっては、大人数のイベントに参加することは、ハードルが高かったようだ。イベント参加は叶わないとしても準備に関わってもらうなど関わりしろを増やしていきたい。また月一回顔をあわせることで、他のイベントでも声をかけられるような関係性ができてきた。 西成区社協の方とも出会い、何度か話し合い、区民センターで行われた多文化共生フェスにはじめて参加するに至った。ベトナムの音楽でオリジナル体操を作り、毎日商店街で体操を続けていると、それに気づいた人が声をかけてくれることも出てきた。 一緒に面白く新しい体験ができることを重要視してイベントを考えたため、評判は上々で子どもたちには喜んでもらえたようだった。